

2015年9月期 決算説明資料

2015年11月

フィンテック グローバル株式会社

(東証マザーズ:8789)

<http://www.fgi.co.jp/>

2015年9月期 通期業績 営業概況

2015年9月期 事業総括

投資銀行事業、不動産事業ともに事業拡大。特に投資銀行事業の再生可能エネルギー関連が好調で業績を牽引するものの、保有するプロジェクトが次期持越しとなったこと及びメツツァ関連事業費用等が増加したことにより最終的に業績予想数値を下回る。事業拡大の為の組織構築、人員体制整備が急務。

- 再生可能エネルギー関連、サ高住関連のプロジェクトのアレンジ、アセットマネジメント、地域産業の振興支援等を含めて、複合的に事業を推進
- 出資するベンチャーキャピタルファンドが、ライフサイエンス・プロジェクトの大型投資回収
- 個人マーケットを対象とした不動産事業(ベターライフサポート事業※)が拡大。
2015年5月より、戸建住宅販売を開始。
ベルスの福利厚生サービス(対象企業等の職員総数1,200万人)を提供する住宅購買層にダイレクトにアクセスするビジネスモデルを整備。-(不動産事業)
- 新株予約権による資金調達(3Q~4Q)
2015年4月発行の行使価額修正条項付新株予約権が8月4日までに全数行使完了して、2,392百万円の資金調達を実施。
- ムーミンテマパークを主力とするメツツァの候補地を、埼玉県飯能市の宮沢湖畔に決定。
宮沢湖畔の不動産を取得。2017年の開業に向け、準備を進める。

※ベターライフサポート事業：
人々のより良い生活をサポートしていくために主に不動産関連サービスを提供する事業。

2015年9月期 連結業績ハイライト

(単位：百万円)	業績予想(当初発表) (2014年11月発表) (A)	業績予想(最終発表) (2015年9月発表)	2015年9月期 実績(B)	当初業績予想比 (B)-(A)	2014年9月期 通期実績
売上高	※ 7,000	5,400	5,429	△1,570	3,911
売上総利益	—	—	2,495	—	2,398
営業利益	1,250	200	115	△1,134	555
経常利益	1,200	360	237	△962	684
当期純利益	1,100	300	224	△875	923

※2015年5月、岡山建設の売却により6,000百万円に修正。

■業績概要

✓【売上高、売上総利益】

- ・上半期は太陽光発電プロジェクトのアレンジが好調。下半期は優良プロジェクトの確保を優先したため、売上高は伸び悩む。確保したプロジェクトの収益貢献は2016年9月期へ。
- ・FGFのライフサイエンス・プロジェクトの大型エグジット(投資回収)により、売上高510百万円、売上総利益524百万円が貢献。
- ・前期に子会社化した不動産仲介、販売会社は、仕入、販売の進捗が遅れ、当初予想に達せず。
- ・建設事業は、子会社(岡山建設)売却により、2Qで終了。

✓【販管費、営業利益、経常利益】

- ・メツツァ関連事業費及び体制整備の人的費用等増加による販管費増加。
- ・営業外収益に、為替差益157百万円を計上(ベンチャーファンドへのドル建て投資分)。

※FGF(FinTech GIMV Fund)

当社、日本政策投資銀行、GIMV(ベルギーの投資会社)がリードインベスターとなるライフサイエンス及びICT分野に投資するベンチャーキャピタルファンド。

セグメント情報

(注)売上高はセグメント間取引を含む。

(単位:百万円)		2014年9月期	2015年9月期	前年同期比	主な連結会社	
1	投資銀行事業	売上高 営業利益	1,776 1,369	1,641 1,335	△135 △33	当社 (FGI)、フィンテックアセットマネジメント (FAM) フィンテックグローバルトレーディング (FGT) (注)
	2	不動産事業	売上高 営業利益	1,093 △32	3,371 △80	
3		建設事業	売上高 営業利益	979 17	423 △0	△556 △18
	4	その他	売上高 営業利益	74 △28	40 △105	△34 △76
調整額		売上高 営業利益	△13 △770	△47 △1,034	△34 △264	
	連結PL計上額	売上高 営業利益	3,911 555	5,429 115	1,518 △440	

(注) FGT、ムーミン物語、アダコテックは第2四半期連結会計期間より連結。PMCは第1四半期末に、岡山建設は第3四半期期首より連結の範囲から除外。

1

・太陽光発電の有力なEPC事業者(設計、機器調達、建設を含むプロジェクト事業者)との協働で、事業法人等の投資家に投資機会を提供。第2四半期まで多くのプロジェクトをアレンジ業務を受託。第3四半期以降は、優良プロジェクトの確保を優先し当期中の収益化を企図するも、多くの案件が次期に持越し。

・ベンチャーキャピタルファンド(FGF)の大型の投資回収が収益貢献(売上高510百万円 売上総利益524百万円)。

2

・ベルスの福利厚生サービスは、持家支援サービスがマンション引渡し増により好調。不動産業務は、用地を仕入れるも当期中の売却に至らず。労働組合連合体等の福利厚生サービスの当期新規導入企業は11社。「ゼロ円」福利厚生サービスの新規顧客開拓と、獲得した既存顧客の深耕とともに、次期業績へ寄与。

・不動産仲介業務は、成約率が高い職域へのアプローチに注力。不動産販売業務では、用地取得を進め、戸建住宅が2015年5月に最初の竣工を迎えるも、当初予定よりも遅れ、販売計画の達成には至らず。しかしながら、期末の販売用不動産は1,515百万円、仕掛販売用不動産は1,135百万円となり、次期の業績への寄与を狙う。

3

・建設事業を行う岡山建設の普通株式を2015年5月に売却、第3四半期より連結の範囲から除外。(第2四半期からの進捗はない)

4

・ムーミン物語は、メツツア(Metsä)事業の開発計画、コンセプト、コンテンツの検討や各種許認可申請の対応を当社とともに進める。
・アダコテックの異常監視・予兆検知用途のソフトウェアは、製造工程や運行中の機器モニタリングなどのインダストリアルIoT分野への応用が期待。運輸・旅客業界に対しては、安全確保の取組の実証実験を進め、大手IPカメラメーカー製品向けに対しては、PCレスでの運用を可能とする取組みを進めるなど、大手企業から引合が増加。

営業投資有価証券、販売用不動産等の推移(連結)

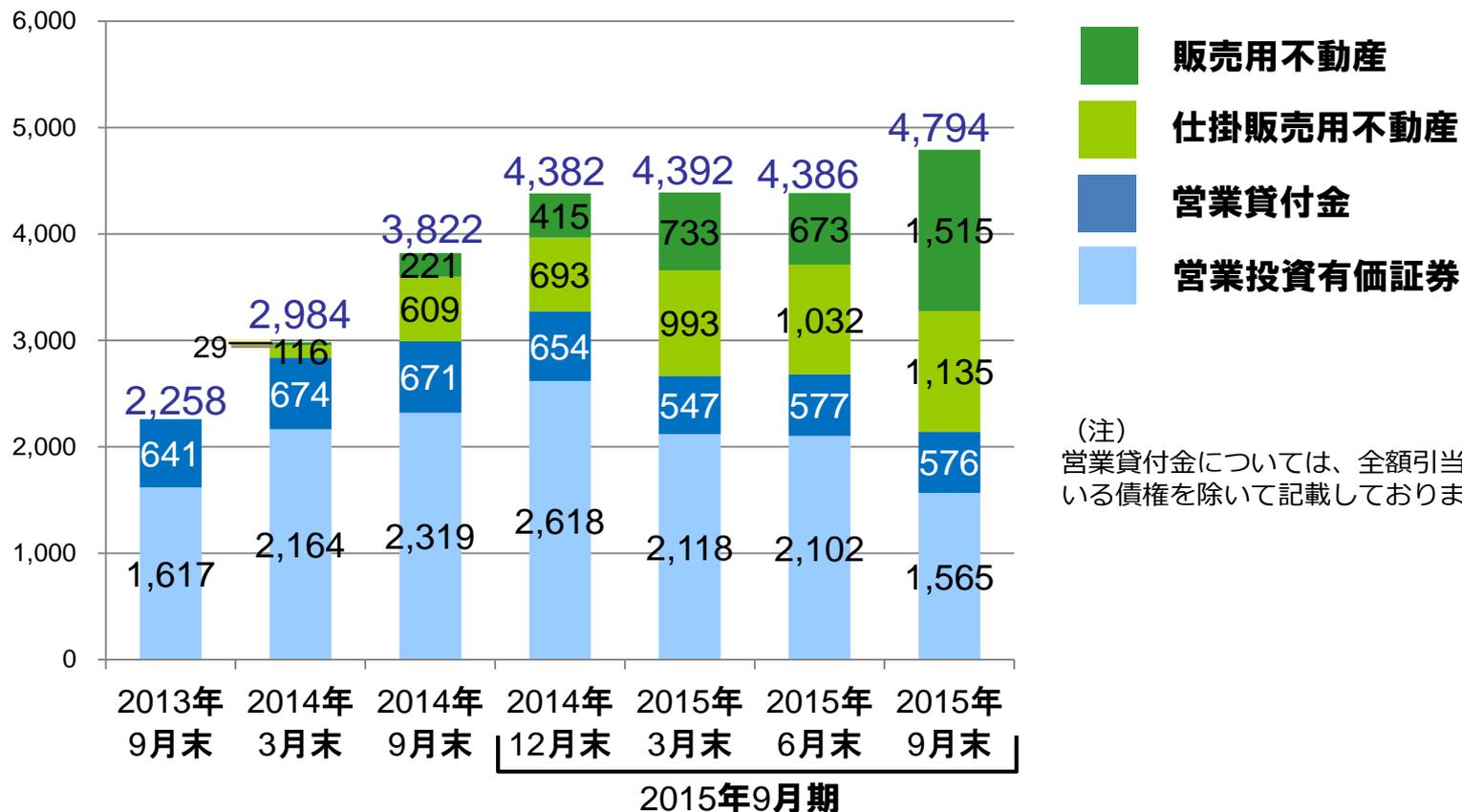
•営業投資有価証券

FGF (IT、バイオ関連のファンド)の新規追加出資や、ユニークな事業を行う成長力ある企業に出資。一方で、ライフサイエンス・プロジェクトの投資回収や、企業投資ファンドの期間満了による投資回収、(株)ムーミン物語の連結子会社化により、前期末比753百万円減少。

•販売用不動産、仕掛販売用不動産

戸建住宅用地の取得 — 戸建住宅開発が本格化し、前期末比で販売用不動産が1,294百万円、仕掛販売用不動産が526百万円増加。

(単位:百万円)

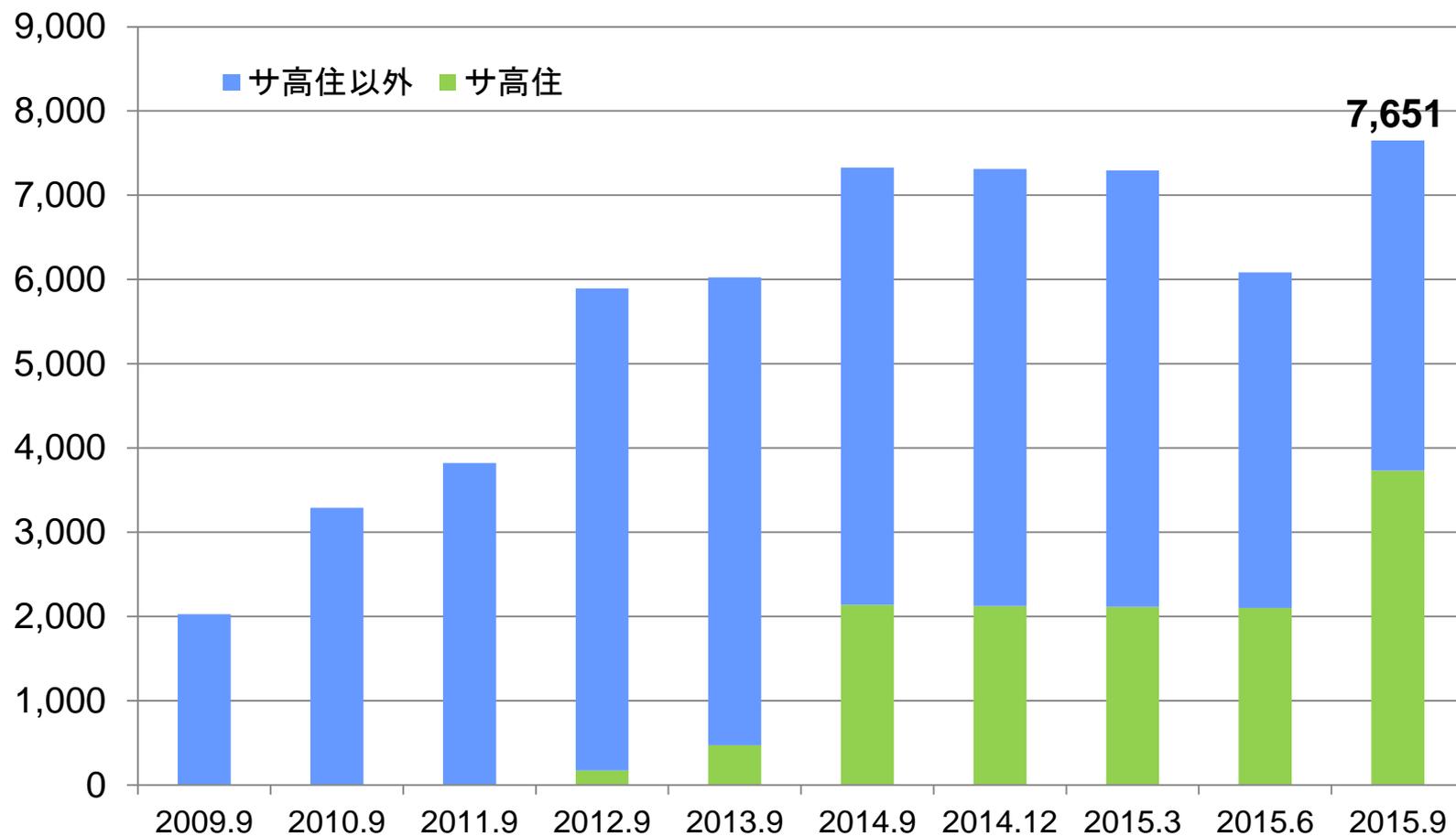


(注)
営業貸付金については、全額引当している債権を除いて記載しております。

フィンテックアセットマネジメントの受託資産残高(AUM)の推移

2015年9月期に3件のサービス付高齢者向け住宅(開発フェーズを含む)を新規受託
当期末ではトータル6件の受託 今後の安定的な受託手数料の収入を見込む
企業投資ファンドの一部がファンド期間終了により減少。

(百万円)



2015年9月期

2015年9月期の取組み メツツァ(Metsä)事業を開始-1

北欧の雰囲気とムーミンの世界を体験できる施設「メツツァ」を2017年に開設予定

- ☑ 埼玉県飯能市の宮沢湖を中心とし広大なエリアを取得。
- ☑ 飯能市の誘致活動のもと、当該地の多くを所有する西武鉄道(株)からも本プロジェクトへの賛同を受け、取得を決定。
- ☑ ムーミン作品のテーマの一つでもある「自然との共生」と、「ムーミン」の棲む自然あふれるムーミン谷の世界を体現するのに相応しいと判断。

取得用地の概要

- ①所在地 埼玉県飯能市宮沢、他
- ②面積 宮沢湖(周囲2.4km)の周辺土地約187,000㎡
※東京ドーム約4個分の広さ
- ③取得価額 6億円(付属の建物を含む)

予定する施設の名称
Metsä(メツツァ)
フィンランド語で「森」

「Museum(美術館)、Resort(リゾート)、Park(公園)、Leisure(レジャー施設)
全てのあらゆる要素が融合した施設
固定概念にしばられない 新たなネーミングすべてを包括するメツツァ=森



2015年9月期の取組み メツツア(Metsä)事業を開始-2

これまでの経緯

- 2013年11月 当社及びPuuha International Oy (フィンランド共和国)が50%ずつ出資し、(株)ムーミン物語を設立
(株)ムーミン物語が、「ムーミン」の著作権を保有するOy Moomin Characters Ltd (フィンランド)の
グローバルな専属代理人であるBulls Presstjänst AB (スウェーデン)との間で、「ムーミン」を
主題としたテーマパークに関する日本国内の独占的ライセンス契約を締結。
- 2014年6月 当社が(株)ムーミン物語の第三者割当増資を引受け、出資比率を75%とする。
- 2015年5月 「(株)ムーミン物語」を当社の連結子会社することを決定。
- 2015年6月 飯能市の宮沢湖畔にて、北欧の雰囲気とムーミンの世界を体験できる施設「メツツア (Metsä)」を開設することを決定。
当社が飯能市の宮沢湖畔を所有する西武鉄道(株)と不動産売買契約を締結。
飯能市と「ムーミン」の世界を体験できる施設の開設をはじめとした地方創生に資する事項で、当社と飯能市
が連携・協力することを合意し、飯能市と「地方創生に関する基本協定」を締結。
- 2015年8月 不動産の売買代金の一部支払、及び不動産の一部引渡。
- 2016年5月31日まで(予定)
不動産の売買代金の残金支払及び残りの不動産引渡。

なお、2015年10月1日付の当社組織変更で、専属の「メツツア事業準備室」を設置。
(株)ムーミン物語とともに、2017年のオープンに向けての準備を進める。

連結貸借対照表

資産の部

	14年9月期	15年9月期	増減
流動資産	6,591,999	10,507,445	3,915,445
現金及び預金	2,034,917	4,617,855	2,582,938
1 受取手形・売掛金	255,142	237,393	△ 17,748
※ 完成工事未収入金	247,275	—	△ 247,275
2 営業投資有価証券	2,319,357	1,565,930	△ 753,427
営業貸付金	857,021	761,902	△ 95,119
3 販売用不動産	221,332	1,515,740	1,294,408
仕掛販売用不動産	609,460	1,135,958	526,498
※ 未成工事支出金	2,387	—	△ 2,387
繰延税金資産	4,176	4,342	166
その他	324,956	870,335	545,379
貸倒引当金	△ 284,028	△ 202,015	82,013
固定資産	860,247	1,450,659	590,412
4 有形固定資産	121,373	841,025	719,651
無形固定資産	164,331	129,704	△ 34,627
投資その他の資産	574,541	479,929	△ 94,612
資産合計	7,452,246	11,958,104	4,505,858

負債の部

(単位: 千円)

	14年9月期	15年9月期	増減
流動負債	1,459,524	3,109,925	1,650,400
※ 支払手形・買掛金	254,826	41,639	△ 213,186
※ 工事未払金	65,396	—	△ 65,396
短期借入金	628,100	2,372,557	1,744,457
1年内償還予定の社債	16,000	46,000	30,000
1年内返済予定の長期借入金	13,068	163,284	150,216
5 未払法人税等	31,466	41,396	9,929
未成工事受入金	55,867	—	△ 55,867
賞与引当金	32,083	42,466	10,383
その他	362,717	402,581	39,864
固定負債	457,877	968,294	510,416
5 社債	24,000	98,000	74,000
長期借入金	226,591	691,779	465,188
退職給付に係る負債	148,926	105,646	△ 43,280
繰延税金負債	45,797	37,606	△ 8,190
その他	12,562	35,261	22,699
負債合計	1,917,402	4,078,219	2,160,817

純資産の部

	14年9月期	15年9月期	増減
株主資本	5,507,738	7,940,881	2,433,143
6 資本金	3,351,561	4,548,138	1,196,576
資本剰余金	929,373	2,125,950	1,196,576
利益剰余金	1,226,803	1,266,792	39,989
その他の包括利益累計額	△ 573	△ 118,455	△ 117,881
新株予約権	4,168	16,729	12,560
少数株主持分	23,510	40,728	17,217
純資産合計	5,534,844	7,879,885	2,345,041
負債純資産合計	7,452,246	11,958,104	4,505,858

1 主に再生可能エネルギー事業のアレンジに係る売掛金

2 FGIが投資する企業投資ファンド回収が進むが、新規企業投資も伸長。ムーン物語子会社化(2Q)により残高が減少

3 不動産事業での戸建用地取得等による増加

4 メツツア事業用地(一部取得により5億円計上)、不動産事業の子会社の営業所を取得

5 不動産事業における借入、私募債発行のほか、投資銀行事業の運転資金として借入が増加

6 新株予約権の行使により、資本金1,196百万円、資本準備金1,196百万円がそれぞれ増加

※は、岡山建設を連結除外したことにより、大きく減少、又は残高がゼロになった科目

連結損益計算書

(単位: 千円)

	2014年9月期	2015年9月期	増減
売上高	3,911,305	5,429,688	1,518,383
売上原価	1,513,286	2,934,417	1,421,130
売上総利益	2,398,018	2,495,270	97,252
販売費及び一般管理費	1,842,451	2,380,246	537,795
営業利益	555,567	115,024	△ 440,542
営業外収益	165,607	166,160	552
営業外費用	36,296	44,175	7,879
経常利益	684,878	237,008	△ 447,869
特別利益	284,087	23,999	△ 260,087
特別損失	20,990	27,578	6,588
税金等調整前当期純利益	947,975	233,429	△ 714,546
法人税等	14,942	33,176	18,233
少数株主損益調整前当期純利益	933,033	200,253	△ 732,779
少数株主利益又は少数株主損失(△)	9,213	△ 24,227	△ 33,441
当期純利益	923,819	224,481	△ 699,337

1 投資銀行事業は、投資銀行業務(アレンジメント業務受託等)の売上高好調
不動産事業による売上高、売上原価が増加 [不動産事業の連結子会社5社は、2014年9月期3Qから損益計算書を連結]
(2014年9月期には、保険契約準備金の戻入等により売上原価174百万円をマイナスで計上)

2 前期に計上していた仲裁費用はなくなったものの、人員補強により、人件費が増加。また、不動産事業の宣伝広告費等が増加。

3 為替差益147百万円の計上(主にFGIのベンチャーキャピタルファンド(米ドル建)への投資によるもの)

2016年9月期 通期業績予想

2016年9月期 通期業績予想について

(単位：百万円)	2015年9月期 実績	2016年9月期 業績予想	前期比
売上高	5,429	7,700	2,271
営業利益	115	230	115
経常利益	237	180	▲57
当期純利益	224	170	▲54

業績予想

メツァ関連事業の先行投資費用が大きく、次のステージに向けた投資銀行事業飛躍の為の販管費増加。2015年9月期で寄与した企業投資収益は2017年9月期以降大型エグジット見込まれるものの2016年9月期は見込まず。好調な投資銀行事業（再生可能エネルギー）及び本格稼働を始めた不動産事業で増収増益（営業利益ベース）を見込む。

◆投資銀行事業（ファイナンスアレンジ・プロジェクト推進アレンジ等）

- 再生可能エネルギー事業のアレンジメントにおいては、新たな有力EPC事業者（設計、機器調達、建設を含むプロジェクト事業者）の開拓及びプロジェクトへのプリンシパルファイナンス実施により開発を加速させ、引続き好調なアレンジ業務の収益を中心に見込む。

◆投資銀行事業（企業投資）

- 海外企業とのジョイントベンチャー、ライフサイエンスにおける創薬・医療の研究支援及び情報通信・エレクトロニクスの先端技術開発などのプロジェクトへの投資を引続き実施。国内外のユニークで成長力のある企業への投資に注力

◆不動産事業

- 子会社ベルスの福利厚生サービスの顧客職員及びユニハウス提携優良事業法人の職員への職域販売の拡大。

◆販売管理費については、メツァ事業費用（580百万円）及び事業拡大に伴う体制構築の人件費が増加

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

配当について

- 2015年9月期 期末配当及び2016年9月期 配当予想

2015年9月期 期末配当及び2016年9月期 配当予想

■ 2015年9月期 期末配当の概要

✓ 当社普通株式 1株につき60銭 配当総額 97,147,560円

(支払開始日 2015年12月24日)

- ✓ 経営基盤の強化と拡大する事業を迅速かつ確実に捉えるために、十分な内部留保金を維持することに留意しつつ、株主の皆様に利益を還元することが配当政策上重要であると考え、業績の状況や将来の事業展開などを総合的に勘案して配当することを基本としています。
当期の業績や今後の業績見通し、内部留保、今後の事業展開等を総合的に勘案した結果、1株当たり60銭の期末配当を実施する予定です。

(注) 2015年9月期 期末配当については、2015年12月22日開催予定の第21期定時株主総会の決議をもって正式に決定、実施する予定であります。

■ 2016年9月期の配当予想について

- ✓ 業績動向及び事業拡大に係る資金需要等や、十分な内部留保金を維持することに留意しつつ、株主の皆様に利益を還元していく方針です。2016年9月期の期末配当予想については、上記方針を総合的に判断して2015年9月期と同額の配当金を維持し、**1株につき60銭**とさせていただきます。

参考資料①

- FGIグループの事業モデルー投資銀行事業
- 企業投資ー3つの投資
- 投資先企業（抜粋）

FGIグループの事業モデルー投資銀行事業

投資銀行業務と企業投資を両輪として、顧客企業の事業拡大を支援。推進プロジェクトは多様化・深化。
B to Bを中心とする国内地域支援プロジェクト、海外展開に加えて、B to C (個人顧客向け)事業も拡大。

投資銀行事業

企業の成長、事業拡大に貢献するブティック型投資銀行 (FGI、FAM、FGT)

投資銀行業務

ストラクチャードファイナンス・プロダクツを提供
プロジェクト推進アレンジ等

企業投資

潜在性・将来性の豊かな企業に投資
成長を支援し、投資先企業の価値を高めます



投資銀行業務 各種プログラム

- ストラクチャードファイナンス
- プロジェクトアレンジ
- アセット・マネジメント
- ファンドレイズ
- 企業再生支援
- 地域産業支援
- 財政健全化支援
- 公会計・公共財産のコンサルティング

- 再生可能エネルギー施設
- 不動産関連プロジェクト
- 介護・福祉施設
- セルフストレージ

資産流動化の対象



子会社

不動産事業 (B to C)

- 企業の従業員向け福利厚生サービス(持家支援等)
【(株)ベルス】(連結)
- 不動産仲介
【(株)ユニハウス】(連結)
- 戸建住宅分譲
【ベターライフハウス(株)】(連結)

その他の事業

- メツツア事業 (B to C)
【(株)ムーミン物語】(連結)
- 異常検知のソフトウェア
【(株)アダコテック】(連結)
- ハニーベイクドハム事業 (B to C)
【虎ノ門ハム(株)】(非連結)

ファンド

FinTech Gimv Fund

- ライフサイエンス企業
- IT・エレクトロニクス企業

事業法人

成長、事業再生企業

- ハイテクベンチャー
- フィンテックベンチャー
- 不動産会社



ユニークな技術、事業、顧客基盤を持ち、今後様々な成長が期待できる事業に投資

企業投資－3つの投資体制

3つの投資体制が有機的に連携し、企業に投資・事業支援

プリンシパルインベストメント

FGI

ベンチャーキャピタルファンドを通じた投資

投資
事業支援

FGT

投資
事業支援

投資

FINTECH GIMV
FUND

投資、事業支援

国内外の成長企業
事業承継に伴う出資
事業再生企業等

ライフサイエンス企業
IT、エレクトロニクス企業

投資先企業(抜粋)

■FGI及びFGTのプリンシパル インベストメント

株式会社 アダコテック【2012年4月～】

株式会社アダコテックは、HLAC/CHLAC(国立研究開発法人 産業技術総合研究所が開発した静止画・動画等のデジタルデータより異常発見する技術)の応用開発と事業化を行っております。HLAC/CHLACの応用範囲は広く、セキュリティ、製造設備の異常認識、医療・介護分野からの引合が増加しております。同社は、2015年9月期第2四半期より連結子会社となっております。

株式会社イデアクエスト【2015年2月～】

株式会社イデアクエストは、赤外線輝点投光器と輝点撮像カメラを組み合わせたセンサーを用いた認知症患者用非接触ベッド見守りシステムや、成人・新生児を対象とする呼吸機能診断装置などの製品開発を専門とする、少子高齢化社会の到来に立ち向かう大学発のベンチャー企業です。経済産業省のロボット介護機器開発・導入促進事業の対象に認定される等、先進的地位を確保しています。FGTは、同社の第三者割当増資の引受けを行うとともに、同社の海外展開支援、営業展開支援等を担います。



Queen Bee Capital 株式会社【2015年10月～】

Queen Bee Capital(クイーンビーキャピタル)株式会社は財務省関東財務局長の許可を得た資金移動事業者で、インターネットによる通貨両替・海外送金サービス「PayForex」を運営・展開するフィンテックベンチャー企業です。拡張性の高い独自のシステムと各国現地銀行との提携関係の構築等を通じ、安全性を確保しながら、従来の銀行よりも早く・安く利便性の高い通貨両替・海外送金サービスを提供しています。



投資先企業(抜粋)

■FGI及びFGTのプリンシパル インベストメント

虎ノ門ハム株式会社【2013年6月～】

虎ノ門ハム株式会社は、米国最大級のハムブランドを擁するThe HoneyBaked Ham Companyより、日本におけるHoneyBaked(ハニーベイクド)ブランドを使った各種事業における独占的営業ライセンスを保有し、2013年に事業を開始しました。2015年8月には東京都港区(日比谷線神谷町駅すぐ)に、第1号店舗を開設致しました。

同社は、2015年9月期より非連結子会社となりました。



みらいエネルギー・パートナーズ株式会社【2013年9月～】

みらいエネルギー・パートナーズ株式会社(以下、「みらいエネルギー」)は、国内水力発電事業者が所有する中規模水力発電所の共同改修事業(エンパワメント事業)を行っております。事業者と共同で設立するSPCにより、発電資産を取得し、国内外投資家の資金を活用しながら投融資を行うスキームによる発電事業者と一体となったFIT事業を推進しております。FGIは、みらいエネルギーの第三者割当増資(20%)を引受ける形で、出資しており、案件ソーシング、投資家招聴、資金調達等の役割を担います。



株式会社ムーミン物語【2013年11月～】

フィンランドのPuuha International Oyと当社で資本を拠出し、「ムーミン」を主題としたテーマパークを日本に設立することを目的として、「株式会社ムーミン物語」を設立。同社は2015年9月期第2四半期より連結子会社となりました。



投資先企業(抜粋)

■ベンチャーキャピタルファンドを通じた投資 (FinTech GIMV Fund, L.P.の投資先)

ALVINE

Alvine Pharmaceuticals, Inc. 【2012年12月～】

Alvine Pharmaceuticalsはグルテンによって引き起こされる自己免疫疾患であるセリアック病に対する治療薬を開発する企業です。Alvine社は同社開発中のALV-003の第二相臨床試験で人での有効性を確認しております。

ScaleMP, Inc. 【2012年12月～】

ScaleMPは、ハイエンドのコンピューターを仮想化する技術を開発しています。この仮想化により、高パフォーマンスとTCO (total cost of ownership、コンピュータシステムの導入、維持・管理などにかかる費用の総額)の低減が可能となります。

株式会社モフィリア 【2011年3月～】

「安心・安全・快適な社会を実現する」を目標として、小型・高速かつ高精度で快適な操作性を実現した指静脈認証機器の開発・製造・販売を行っております。

Histogenics Corporation 【2012年7月～】

スポーツ・事故等による膝軟骨損傷に対して、新生関節軟骨移植の再生医療ビジネスを展開する企業です。2014年12月に米国NASDAQ市場に上場しております(HSGX)。

SFJ Pharmaceuticals Inc. 【2010年2月～】



パートナー製薬企業に革新的な資金調達アプローチを提供しており、エーザイやファイザーといった大手製薬企業と有望な新薬候補品の共同開発契約を締結、エーザイとの甲状腺癌の共同開発を成功裏に完了しております。

株式会社アール・アイ 【2009年3月～】



稀少な国産ユーティリティソフトメーカーです。法人向けの販売チャンネル開拓に成功し、導入1,000社・40,000ライセンスを販売しております。

参考資料②

- 個別貸借対照表、個別損益計算書
- グループ各社 単体業績の推移
- 連結業績推移（6期分）
- 会社概要

個別貸借対照表

	資産の部		
	14年9月期	15年9月期	増減
流動資産	4,837,705	8,092,919	3,255,214
現金及び預金	1,172,656	4,178,000	3,005,344
売掛金	205,826	160,300	△ 45,526
営業投資有価証券	2,313,509	1,505,339	△ 808,170
営業貸付金	877,981	782,862	△ 95,119
短期貸付金	443,504	924,050	480,546
その他	104,211	789,108	684,896
貸倒引当金	△ 279,984	△ 246,741	33,243
固定資産	905,930	1,579,563	673,632
有形固定資産	107,451	613,387	505,935
無形固定資産	1,961	9,034	7,073
投資その他の資産	796,517	957,141	160,623
資産合計	5,743,636	9,672,483	3,928,847

	負債の部			(単位: 千円)
	14年9月期	15年9月期	増減	
流動負債	548,909	1,559,865	1,010,956	
買掛金	46,938	35,451	△ 11,487	
短期借入金	265,100	1,220,500	955,400	
1年内返済予定の長期借入金	—	17,268	17,268	
未払金	25,525	138,547	113,022	
預り金	163,728	31,463	△ 132,264	
賞与引当金	18,721	30,703	11,982	
その他	28,896	85,932	57,036	
固定負債	100,095	266,403	166,308	
長期借入金	—	138,929	138,929	
リース債務	1,254	369	△ 885	
退職給付引当金	69,925	73,329	3,403	
その他	28,914	53,776	24,861	
負債合計	649,004	1,826,269	1,177,265	

純資産の部			
株主資本	5,091,706	7,948,398	2,856,691
資本金	3,351,561	4,548,138	1,196,576
資本剰余金	916,784	2,113,361	1,196,576
利益剰余金	823,361	1,286,898	463,537
評価・換算差額等	△ 1,243	△ 118,914	△ 117,670
新株予約権	4,168	16,729	12,560
純資産合計	5,094,631	7,846,213	2,751,581
負債純資産合計	5,743,636	9,672,483	3,928,847

個別損益計算書

(単位: 千円)

	2014年9月期	2015年9月期	増減
売上高	1,623,991	1,464,130	△ 159,860
売上原価	256,681	192,324	△ 64,356
売上総利益	1,367,309	1,271,805	△ 95,504
販売費及び一般管理費	917,548	1,106,011	188,463
営業利益	449,761	165,793	△ 283,967
営業外収益	209,323	238,466	29,142
営業外費用	87,857	100,781	12,924
経常利益	571,228	303,479	△ 267,749
特別利益	3,888	269,903	266,014
特別損失	104,890	36,166	△ 68,723
税引前当期純利益	470,227	537,216	66,988
法人税等	△ 63,971	80	64,051
当期純利益	534,199	537,136	2,937

グループ各社 単体業績の推移

セグメント：投資銀行事業

フィンテック グローバル	2014年9月期			2015年9月期		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	1,310	313	1,623	531	932	1,464
売上総利益	1,178	188	1,367	376	895	1,271
経常利益	790	△ 219	571	28	274	303

セグメント：投資銀行事業

フィンテック アセット マネジメント	2014年9月期			2015年9月期		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	179	86	265	30	55	85
売上総利益	179	80	260	30	55	85
経常利益	105	21	126	△1	26	25

セグメント：投資銀行事業

フィンテック グローバル トレーディング	2015年9月期
	通期 (15年1月～9月)
売上高	171
売上総利益	160
経常利益	95

2015年1月より連結

セグメント：その他

ムーミン物語	2015年9月期	アダコテック	2015年9月期
	通期 (15年1月～9月)		通期 (15年1月～9月)
売上高	0	売上高	19
売上総利益	0	売上総利益	19
経常利益	△ 95	経常利益	△ 2

2015年1月より連結

セグメント：不動産事業

ベルス	2014年9月期			2015年9月期		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	209	233	442	204	359	564
売上総利益	169	192	362	136	294	431
経常利益	△ 9	13	3	△ 44	35	△ 9

2015年9月期は決算期変更のため、15ヶ月決算(下半期は9ヶ月)

セグメント：不動産事業

ユニハウス	2014年 9月期	2015年9月期			城南開発	2014年 9月期	2015年9月期		
	下半期 (14年4月 ～9月)	上半期	下半期	通期		下半期 (14年4月 ～9月)	上半期	下半期	通期
売上高	39	221	205	426	売上高	152	12	1	14
売上総利益	39	221	205	426	売上総利益	152	12	1	14
経常利益	△ 63	△ 22	△ 50	△ 72	経常利益	23	△ 3	△ 10	△ 14

2014年4月より連結

2014年6月、ユニハウスホールディングスが城南開発(旧ユニハウス)より事業譲渡(商号譲渡を含む)を受け、商号をユニハウスとしております。

2014年4月より連結 2015年9月解散

2014年6月30日、ユニハウスから城南開発に商号変更しております。

セグメント：不動産事業

ベターライフ ハウス	2014年 9月期	2015年9月期			スリーオーク	2014年 9月期	2015年9月期		
	下半期 (14年4月 ～9月)	上半期	下半期	通期		下半期 (14年4月 ～9月)	上半期	下半期	通期
売上高	20	670	1,400	2,071	売上高	321	239	173	412
売上総利益	17	56	89	146	売上総利益	30	8	8	16
経常利益	△ 11	△ 12	△ 27	△ 40	経常利益	8	6	2	9

2014年4月より連結

2014年4月より連結 2015年9月解散

セグメント：建設事業

岡山建設	2014年9月期	2015年9月期
	下半期 (14年3月～9月)	上半期(14年10月 ～15年3月)
売上高	979	423
売上総利益	83	54
経常利益	26	1

2015年3月より連結、2015年9月期第3四半期より連結除外

単位：百万円

連結業績の推移

決算年月		2010年 9月期	2011年 9月期	2012年 9月期	2013年 9月期	2014年 9月期	2015年 9月期
売上高	(百万円)	3,465	6,988	2,038	1,603	3,911	5,429
売上総利益	(百万円)	935	3,509	908	1,468	2,398	2,495
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	△ 2,604	1,220	△ 915	88	684	237
当期純利益又は当期純損失(△)	(百万円)	△ 2,172	1,404	△ 1,274	182	923	224
純資産額	(百万円)	3,164	4,870	3,632	2,716	5,534	7,879
総資産額	(百万円)	7,352	7,682	6,417	4,770	7,452	11,958
1株当たり純資産額	(円)	20.25	31.52	19.82	22.23	37.41	48.31
1株当たり当期純利益金額 又は当期純損失金額(△)	(円)	△ 17.99	11.69	△ 10.70	1.52	6.92	1.48
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)	—	11.68	—	1.52	6.89	1.47
自己資本比率	(%)	33.3	48.9	36.8	56.4	73.9	65.4
自己資本利益率	(%)	△ 61.2	45.3	△ 41.7	7.2	22.5	3.4
株価収益率	(倍)	—	2.6	—	21.9	9.2	84.7
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	626	1,953	959	△ 464	△ 2,208	△ 1,791
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 2,281	△ 631	80	85	509	△ 644
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 3,376	△ 413	△ 233	△ 128	2,065	4,761
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	829	1,711	2,522	1,644	2,024	4,612
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	72(13)	70(17)	60(19)	51(13)	109(7)	117(8)
従業員数(単体) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	40(2)	15(2)	20(3)	26(3)	24(3)	38(3)

当社は、2014年4月1日を効力発生日として、1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、当該株式分割が2010年9月期の期首に行われたと仮定して、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額(△)及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

会社概要

会社名	フィンテック グローバル株式会社 (FinTech Global Incorporated)		
本店所在地	東京都港区虎ノ門4-1-28 虎ノ門タワーズオフィス19F		
設立年月日	1994年12月7日		
上場年月日	2005年6月8日、東京証券取引所マザーズ (Code:8789)		
資本金	4,548,138,528円、発行済株式数161,912,600株(2015/9/30現在)		
連結純資産	7,879百万円 (2015/9/30現在)		
連結総資産	11,958百万円 (2015/9/30現在)		
役員	代表取締役社長	玉井 信光	常勤監査役 二宮 幸一
	取締役会長	ロバート・ハースト	監査役(社外) 萩原 啓史
	取締役	鷺本 晴吾	監査役(社外) 大山 亨
	取締役	三橋 透	
	取締役	山中 秀介	
	取締役(社外)	木村 喬	(2015/9/30現在)
大株主	玉井 信光	20,095,500株	(12.41%)
	藤井 優子	3,776,400株	(2.33%)
	長谷川 聡	2,400,000株	(1.48%)
	テンダネス・ファンドT投資事業有限責任組合	2,000,000株	(1.24%)
	日本証券金融株式会社	1,835,700株	(1.13%)
		(2015/9/30現在)	

免責条項

本資料は、当社およびFGIグループの2015年9月期業績に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実(以下、「将来情報」ということがあります)の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付(または当該資料・文書に別途明示された日付)時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし事実または前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提(仮定)が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関する法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付(またはそこに別途明記された日付)時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。